

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西宮市二見町 新築工事	階数	地上6F
建設地	兵庫県西宮市二見町5番1	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、法22条	平均居住人員	211 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年10月13日
敷地面積	2,314 m ²	作成者	馬淵 暁子
建築面積	1,128 m ²	確認日	2022年10月13日
延床面積	5,269 m ²	確認者	川勝 潤

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p> <p>環境品質 Q</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p>① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.4</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 4.0</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.0</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 3.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.4</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.2</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 2.8</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>西宮の景観に配慮し、クラシカルな趣にモダンなデザインを取り入れた邸宅感のあるマンションを目指した。また、環境に配慮し快適な住空間とするためZEH-M Oriented相当とした。</p>	<p>その他</p> <p>特になし</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>高い断熱性能を確保し、窓ガラス等日射に対する配慮により快適な居住空間とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>兵庫県福祉のまちづくり条例の整備基準への適合を目指した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>沿道緑地には常緑高木と並木のリズムを作り、常緑中木で住戸テラスへの視線を遮る配置とした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>Low-E複層ガラスの採用と高い断熱性能の確保により、日本住宅性能表示基準5-1「断熱等性能等級」にて等級5を目指した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型水栓や有害物質を含まない材料を使用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>機械式駐車場を敷地奥に配置し、周辺道路への交通の影響を低減した。また、住戸数の2倍の駐輪台数を確保した。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される